

中施策評価書

作成日 令和04年 5月 11日

中施策事業名	家庭児童相談室事業	部課名	健康福祉部・子育て支援課
		作成者	松村 清子
①めざすまちの姿	01 子ども、高齢者、障がい者等への虐待やDVなどがない		
②大施策	子ども高齢者障がい者等への虐待やDV等を減らす		
③中施策	家族等、子ども、高齢者、障がい者等を支援する人の日常生活に関する悩みや不安を解消する		
④中施策事業の対象	児童及びその家族、関係者等		
⑤中施策事業の意図 (対象をどのようにしたいですか)	日常生活に関する悩みや不安を解消する場があることを知っており、それを活用することにより、地域での孤立や問題の重篤化を予防できている		
⑥中施策事業を構成する 事務事業(手段)	・家庭児童相談室事業 ・巡回支援事業 ・サポートブック事業		

■評価指標

中・長期成果に対する目標達成状況							
家庭相談室の相談 件数	事業実施年度	令和02年度	令和03年度	令和04年度	令和05年度	令和06年度	令和07年度
	目標値	2,600	2,600	2,600	2,700	2,700	2,700
	実績値	3,212	3,278				
単位	件						
	事業実施年度	令和02年度	令和03年度	令和04年度	令和05年度	令和06年度	令和07年度
	目標値	0	0	0	0	0	0
	実績値	0	0				
単位							

※のついた指標はまちづくり指標に同じ

■コスト

事業実施年度				決算額	決算額	予算額
				令和02年度	令和03年度	令和04年度
① 総事業費 (a+b)				3, 448千円	4, 569千円	
	a 事業費合計			3, 448千円	4, 569千円	2, 301千円
	人件費	正規職員	人数	0 人	0 人	
			b 金額	0千円	0千円	
		非常勤一般職員等 (事業費に含む)	人数	0 人	0 人	
			金額	0千円	0千円	
			人件費合計			0千円
② 補助金等（収入）				0千円	0千円	0千円
③ コスト（①－②）				3, 448千円	4, 569千円	
市民一人あたりコスト （③／市の人口（評価対象年度末時点））				50 円	66 円	

■評価

評価項目	内容	評価結果		
(1) 有効性	成果指標は目標値を達成していますか	目標達成	○	A
	大施策に貢献していますか	貢献できた	○	
	重点をおく指標は妥当でしたか	妥当であった	○	
(2) 妥当性	中施策実現に向けて、事務事業はそれぞれの役割を果たしていますか (事業の役割が重複していませんか)	期待された役割を果たしている	○	A
	自治体が関与するのは妥当ですか	妥当であった	○	
(3) 効率性	評価指標達成に対する予算規模・単位コストは適正ですか	適正であった	△	B
(4) 進捗状況	中施策事業は計画通りに進んでいますか	計画より進んでいる、計画通り	○	A

■総合評価

上記までの評価指標、コスト、各項目評価の観点からの分析	総合評価 A 評価指標の実績は前年度に引き続き目標値を上回った。相談室の相談件数の総数は大きく変動していないが、内訳としては児童虐待及び非行相談が増加し、その他の相談がすべて減となっている。これは、コロナ対策により家族が接する時間が増加することになったため、児童虐待の件数及び非行の発見が増加したためと考えられる。今後もPOSTコロナ社会の中、休校・休園等のため学校・保育園等による児童の安全確認が困難となることが予想されるため、専門的な知識を持つ人材を確保し、また、関係機関ともより密接に連携することで、適切に対応できるよう相談体制を整える必要がある。
-----------------------------	---

■改善案の検討

現年度に実施可能な改善・調整事項	専門的な知識を有する相談員を配置し、相談体制を強化する。また、積極的に研修等に参加し、個々の能力の向上を図る。	
翌年度以降に実施可能な改善・調整事項	児童の支援にかかわる各機関が互いの業務を理解し、スムーズに連携が図れるよう、関係機関と情報交換や打ち合わせを頻繁に開催し、相談の質を向上させる。	
今後、改善・拡大する事業	事業名	内容、理由、時期等
今後、実施すべき新規事業	事業名(仮称)	内容、理由、時期等
今後、休廃止する事業	事業名	内容、理由、時期等

中施策評価書

作成日 令和04年 5月 11日

中施策事業名	児童虐待・DV対策事業	部課名	健康福祉部・子育て支援課
		作成者	松村 清子
①めざすまちの姿	01 子ども、高齢者、障がい者等への虐待やDVなどがない		
②大施策	子ども高齢者障がい者等への虐待やDV等を減らす		
③中施策	関係機関と連携して早期発見と素早い対応に努める		
④中施策事業の対象	・ 要保護児童及びその家族、関係者等 ・ DV被害者及びその家族、関係者等		
⑤中施策事業の意図 (対象をどのようにしたいですか)	市民や関係機関が虐待やDVについての知識を持ち、必要な時に通報や連携支援を行うことにより、対象が早期に必要な支援を受けることができる		
⑥中施策事業を構成する 事務事業(手段)	・ 要保護児童対策地域協議会 ・ DV相談事業 ・ 児童保護等の支払		

■評価指標

中・長期成果に対する目標達成状況							
要保護児童対策地域協議会の管理家庭数	事業実施年度	令和02年度	令和03年度	令和04年度	令和05年度	令和06年度	令和07年度
	目標値	100	100	100	70	70	70
	実績値	44	49				
	単位 件						
	事業実施年度	令和02年度	令和03年度	令和04年度	令和05年度	令和06年度	令和07年度
	目標値	0	0	0	0	0	0
	実績値	0	0				
	単位						

※のついた指標はまちづくり指標に同じ

■コスト

事業実施年度				決算額	決算額	予算額
				令和02年度	令和03年度	令和04年度
① 総事業費 (a+b)				5,340千円	10,980千円	
	a 事業費合計			5,340千円	10,980千円	6,627千円
	人件費	正規職員	人数	0 人	0 人	
			b 金額	0千円	0千円	
		非常勤一般職員等 (事業費に含む)	人数	0 人	0 人	
			金額	0千円	0千円	
			人件費合計		0千円	0千円
		② 補助金等 (収入)				2,543千円
③ コスト (①－②)				2,797千円	8,311千円	
市民一人あたりコスト (③／市の人口(評価対象年度末時点))				41 円	121 円	

■評価

評価項目	内容	評価結果		
(1) 有効性	成果指標は目標値を達成していますか	目標達成	○	A
	大施策に貢献していますか	貢献できた	○	
	重点をおく指標は妥当でしたか	妥当であった	○	
(2) 妥当性	中施策実現に向けて、事務事業はそれぞれの役割を果たしていますか (事業の役割が重複していませんか)	期待された役割を果たしている	○	A
	自治体が関与するのは妥当ですか	妥当であった	○	
(3) 効率性	評価指標達成に対する予算規模・単位コストは適正ですか	適正であった	△	B
(4) 進捗状況	中施策事業は計画通りに進んでいますか	計画より進んでいる、計画通り	○	A

■総合評価

上記までの評価指標、コスト、各項目評価の観点からの分析	総合評価 A 要保護児童対策地域協議会で見守る家庭の数は、前年度に比べて増加した。これは、コロナによる影響が長期化する中で、生活様式の変化によるストレスがかかることや、親と児童が接する時間が長くなったことで児童虐待件数が増加したものと考えられる。なお、通告経路の内訳としては家族からが増加しており、虐待予防の意識が各家庭に広がりつつあると考えられる。この通告に対して、速やかに組織的な対応を取るためには、関係機関と日常的に連携を図り、最適な機関へつなぐことが重要であると考えられる。
-----------------------------	---

■改善案の検討

現年度に実施可能な改善・調整事項	引き続き、関係機関との連携を強化維持するとともに、困難事例への対応については重層的に支援できるよう、関係部署との連携を強化する。また、子どもの虐待等を早期に発見できるよう、児童虐待防止推進月間等における市民向けの虐待予防啓発活動を実施する。	
翌年度以降に実施可能な改善・調整事項	多様な目により児童虐待を発見するため、民生児童委員等への虐待予防に関する研修を実施する。	
今後、改善・拡大する事業	事業名	内容、理由、時期等
今後、実施すべき新規事業	事業名(仮称)	内容、理由、時期等
今後、休廃止する事業	事業名	内容、理由、時期等

中施策評価書

作成日 令和04年 5月 11日

中施策事業名	児童扶養手当給付事業	部課名	健康福祉部・子育て支援課
		作成者	松村 清子
①めざすまちの姿	16 支援が必要な人の家族の負担が軽減され、日常生活で困ってない		
②大施策	支援が必要な家族の負担を軽減する		
③中施策	家族を支援するサービスを充実させる		
④中施策事業の対象	ひとり親家庭の児童及び保護者等		
⑤中施策事業の意図 (対象をどのようにしたいですか)	支援をもれなく受けることにより、経済的負担が軽減し、安定した生活を送ることができている		
⑥中施策事業を構成する 事務事業(手段)	・ 児童扶養手当 ・ 愛知県遺児手当・豊明市遺児手当		

■評価指標

中・長期成果に対する目標達成状況							
現況届回収率	事業実施年度	令和02年度	令和03年度	令和04年度	令和05年度	令和06年度	令和07年度
	目標値	99.5	99.6	99.7	99.8	99.8	99.8
	実績値	96.2	97.3				
単位	%						
	事業実施年度	令和02年度	令和03年度	令和04年度	令和05年度	令和06年度	令和07年度
	目標値	0	0	0	0	0	0
	実績値	0	0				
単位							

※のついた指標はまちづくり指標に同じ

■コスト

事業実施年度				決算額	決算額	予算額
				令和02年度	令和03年度	令和04年度
① 総事業費 (a+b)				205, 987千円	197, 385千円	
	a 事業費合計			205, 987千円	197, 385千円	207, 307千円
	人件費	正規職員	人数	0 人	0 人	
			b 金額	0千円	0千円	
		非常勤一般職員等 (事業費に含む)	人数	0 人	0 人	
			金額	0千円	0千円	
			人件費合計			0千円
② 補助金等 (収入)				61, 843千円	60, 008千円	62, 046千円
③ コスト (①－②)				144, 144千円	137, 377千円	
市民一人あたりコスト (③／市の人口(評価対象年度末時点))				2, 095 円	1, 996 円	

■評価

評価項目	内容	評価結果		
(1) 有効性	成果指標は目標値を達成していますか	ほぼ達成	△	B
	大施策に貢献していますか	貢献できた	○	
	重点をおく指標は妥当でしたか	妥当であった	○	
(2) 妥当性	中施策実現に向けて、事務事業はそれぞれの役割を果たしていますか (事業の役割が重複していませんか)	期待された役割を果たしている	○	A
	自治体が関与するのは妥当ですか	妥当であった	○	
(3) 効率性	評価指標達成に対する予算規模・単位コストは適正ですか	適正であった	△	B
(4) 進捗状況	中施策事業は計画通りに進んでいますか	計画より進んでいる、計画通り	○	A

■総合評価

上記までの評価指標、コスト、各項目評価の観点からの分析	総合評価 A 現況届の回収率は昨年度から若干増加し、成果指標としては目標値をほぼ達成している状況である。児童扶養手当の現況届は例年 8 月の 1 か月間、来庁を原則として行っている。これは、対象家庭の状況を対面により直接聞き取ることで、より確実に把握するためであり、また、必要な支援につなぐため、今後も継続していきたいと考える。引き続き市民課や保険医療課とも連携を図り、離婚・再婚等の状況変化のタイミングを的確にとらえ、適宜必要な案内を行い、必要な支援につなぐ。
-----------------------------	---

■改善案の検討

現年度に実施可能な改善・調整事項	令和 4 年度からひとり親支援施策事業を児童係に移管したため、受給者等に寄り添った相談を実施し、手当による経済支援のみならず、ひとり親家庭の個々の状況に応じた、複合的な支援につなげる。	
翌年度以降に実施可能な改善・調整事項	ワンストップの相談支援体制のさらなる強化を図り、支援を必要とするひとり親が相談窓口で確実につながるように、分かりやすい情報提供と相談窓口への誘導を行いつつ、より個々の実情に応じた、寄り添い型支援を行える体制を整備し、相談の「質」の向上を図る。	
今後、改善・拡大する事業	事業名	内容、理由、時期等
今後、実施すべき新規事業	事業名(仮称)	内容、理由、時期等
今後、休廃止する事業	事業名	内容、理由、時期等

中施策評価書

作成日 令和04年 7月 22日

中施策事業名	ひとり親支援施策事業	部課名	健康福祉部・子育て支援課
		作成者	松村 清子
①めざすまちの姿	16 支援が必要な人の家族の負担が軽減され、日常生活で困ってない		
②大施策	支援が必要な家族の負担を軽減する		
③中施策	多様な主体者が連携し、家族を支える環境をつくる		
④中施策事業の対象	ひとり親家庭の児童及び保護者等		
⑤中施策事業の意図 (対象をどのようにしたいですか)	安定した就労や日常生活に関する支援を受けることにより自立した生活が送れるようになる		
⑥中施策事業を構成する 事務事業(手段)	・ 自立支援相談事業 ・ 母子自立支援給付金事業 ・ 母子日常生活支援事業 ・ 母子家庭等児童入学記念品事業		

■評価指標

中・長期成果に対する目標達成状況							
ひとり親家庭の相談支援件数（実件数）	事業実施年度	令和02年度	令和03年度	令和04年度	令和05年度	令和06年度	令和07年度
	目標値	40	40	40	45	45	45
	実績値	39	43				
単位	件						
	事業実施年度	令和02年度	令和03年度	令和04年度	令和05年度	令和06年度	令和07年度
	目標値	0	0	0	0	0	0
	実績値	0	0				
単位							

※のついた指標はまちづくり指標に同じ

■コスト

事業実施年度				決算額	決算額	予算額	
				令和02年度	令和03年度	令和04年度	
① 総事業費 (a+b)				3,520千円	6,309千円		
	a 事業費合計			3,520千円	6,309千円	8,347千円	
	人件費	正規職員	人数	0 人	0 人		
			b 金額	0千円	0千円		
		非常勤一般職員等 (事業費に含む)	人数	0 人	0 人		
			金額	0千円	0千円		
			人件費合計			0千円	0千円
		② 補助金等 (収入)				2,587千円	4,999千円
③ コスト (①－②)				933千円	1,310千円		
市民一人あたりコスト (③／市の人口(評価対象年度末時点))				14 円	19 円		

■評価

評価項目	内容	評価結果		
(1) 有効性	成果指標は目標値を達成していますか	目標達成	○	A
	大施策に貢献していますか	貢献できた	○	
	重点をおく指標は妥当でしたか	妥当であった	○	
(2) 妥当性	中施策実現に向けて、事務事業はそれぞれの役割を果たしていますか (事業の役割が重複していませんか)	期待された役割を果たしている	○	A
	自治体が関与するのは妥当ですか	妥当であった	○	
(3) 効率性	評価指標達成に対する予算規模・単位コストは適正ですか	適正であった	△	B
(4) 進捗状況	中施策事業は計画通りに進んでいますか	計画より進んでいる、計画通り	○	A

■総合評価

上記までの評価指標、コスト、各項目評価の観点からの分析	総合評価 A 相談実人数は昨年度とほぼ横ばいで推移しており、成果指標としては目標値を達成している。一定程度相談ニーズはキャッチできていると考えるが、その相談内容は年々複雑化している。また、令和3年度はひとり親家庭高等学校卒業程度試験合格支援事業の申請者はいなかったが、ひとり親家庭への支援施策は、生活支援・就業支援・経済的支援など多分野にわたり、相互に関連するため、個々のニーズに応じた複雑な組み合わせが必要となる。今後、ひとり親家庭の多様なニーズをワンストップでキャッチし、必要な支援に「つなが」機能が必要であると考え。
-----------------------------	---

■改善案の検討

現年度に実施可能な改善・調整事項	令和4年度からひとり親支援施策事業の所管を児童扶養手当担当の児童係に移管し、ワンストップ相談の実施に向けた体制強化を実施する。また、ハローワークとの協定に基づき、さらなる連携を図り、役割分担しつつ、より効果的な就業支援を推進する。さらに、令和4年10月から全面有料化する市内駐輪場の定期利用料に対して補助金を交付することで、経済的な支援と併せて、ひとり親家庭の多様なニーズをキャッチする機会を創出する。	
翌年度以降に実施可能な改善・調整事項	ワンストップの相談支援体制のさらなる強化を図り、支援を必要とするひとり親が相談窓口に確実につながるように、分かりやすい情報提供と相談窓口への誘導を行いつつ、より個々の実情に応じた、寄り添い型支援を行える体制を整備し、相談の「質」の向上を図る。	
今後、改善・拡大する事業	事業名	内容、理由、時期等
今後、実施すべき新規事業	事業名(仮称)	内容、理由、時期等
今後、休廃止する事業	事業名	内容、理由、時期等

中施策評価書

作成日 令和04年 12月 5日

中施策事業名	児童館管理運営事業	部課名	健康福祉部・子育て支援課
		作成者	松村 清子
①めざすまちの姿	17 子どもが地域とつながり、大人になったときにも地域で活動している		
②大施策	子どもが地域とつながり、大人になったときにも地域で活動できるまちをつくる		
③中施策	地域ぐるみで子どもを育て、見守る環境をつくる		
④中施策事業の対象	児童及びその家族、関係者等		
⑤中施策事業の意図 (対象をどのようにしたいですか)	児童館を拠点とした子育て支援事業や地域との連携した事業により、地域ぐるみの子育てができています		
⑥中施策事業を構成する 事務事業(手段)	・ 児童館の維持管理・運営事業 ・ 児童館の指定管理事業		

■評価指標

中・長期成果に対する目標達成状況							
児童館利用者アンケートにおける満足度の割合	事業実施年度	令和02年度	令和03年度	令和04年度	令和05年度	令和06年度	令和07年度
	目標値	100	100	100	100	100	100
	実績値	100	100				
単位	%						
	事業実施年度	令和02年度	令和03年度	令和04年度	令和05年度	令和06年度	令和07年度
	目標値	0	0	0	0	0	0
	実績値	0	0				
単位							

※のついた指標はまちづくり指標に同じ

■コスト

事業実施年度				決算額	決算額	予算額
				令和02年度	令和03年度	令和04年度
① 総事業費 (a+b)				131, 928千円	130, 763千円	
	a 事業費合計			131, 928千円	130, 763千円	123, 472千円
	人件費	正規職員	人数	0 人	0 人	
			b 金額	0千円	0千円	
		非常勤一般職員等 (事業費に含む)	人数	0 人	0 人	
			金額	0千円	0千円	
		人件費合計			0千円	0千円
② 補助金等 (収入)				0千円	0千円	0千円
③ コスト (①－②)				131, 928千円	130, 763千円	
市民一人あたりコスト (③／市の人口(評価対象年度末時点))				1, 917 円	1, 900 円	

■評価

評価項目	内容	評価結果		
(1) 有効性	成果指標は目標値を達成していますか	目標達成	○	A
	大施策に貢献していますか	貢献できた	○	
	重点をおく指標は妥当でしたか	妥当であった	○	
(2) 妥当性	中施策実現に向けて、事務事業はそれぞれの役割を果たしていますか (事業の役割が重複していませんか)	期待された役割を果たしている	○	A
	自治体が関与するのは妥当ですか	妥当であった	○	
(3) 効率性	評価指標達成に対する予算規模・単位コストは適正ですか	適正であった	△	B
(4) 進捗状況	中施策事業は計画通りに進んでいますか	計画より進んでいる、計画通り	○	A

■総合評価

上記までの評価指標、コスト、各項目評価の観点からの分析	総合評価 A 利用者アンケートにおける満足度はほぼ横ばいで推移しており、成果指標としては目標値を達成している。令和3年度は全児童館を指定管理として2年目の年であり、コロナ禍での児童館の在り方について、手探りではあるが、指定管理者と適切に連携を図りながら、緊急事態宣言期間やまん延防止等重点措置期間には児童クラブと併設の児童館を一時閉館するなど、利用者の安全とともに、エッセンシャルワーカーである職員の安全も確保しながら地域の居場所を確保した。
-----------------------------	---

■改善案の検討

現年度に実施可能な改善・調整事項	令和4年度は愛知県児童館連絡協議会の役員であり、他市町村の児童館担当者との横のつながりを強化し、指定管理者とも適切に連携し、児童館の効率的かつ効果的な管理運営に役立てたい。	
翌年度以降に実施可能な改善・調整事項	令和5年度も引き続き愛知県児童館連絡協議会の役員であり、活動研究委員会の委員として研究をまとめる年であるため、児童館の効率的かつ効果的な管理運営に生かしたい。また、令和7年度からの指定管理者を決めるプロポーザルを令和6年度中に実施する予定であり、令和5年度中にはサウンディング調査を実施するなど、本市の児童館の在り方を見直す機会としたい。	
今後、改善・拡大する事業	事業名	内容、理由、時期等
今後、実施すべき新規事業	事業名(仮称)	内容、理由、時期等
今後、休廃止する事業	事業名	内容、理由、時期等

中施策評価書

作成日 令和04年 6月 10日

中施策事業名	児童福祉地域活動事業	部課名	健康福祉部・子育て支援課
		作成者	松村 清子
①めざすまちの姿	17 子どもが地域とつながり、大人になったときにも地域で活動している		
②大施策	子どもが地域とつながり、大人になったときにも地域で活動できるまちをつくる		
③中施策	地域ぐるみで子どもを育て、見守る環境をつくる		
④中施策事業の対象	児童及びその家族、関係者等		
⑤中施策事業の意図 (対象をどのようにしたいですか)	地域が主体となった子育て支援事業や地域との連携した事業により、地域ぐるみの子育てができています		
⑥中施策事業を構成する 事務事業(手段)	・ 民生児童委員事業 ・ 児童遊園地設置費等補助事業 ・ 子ども会活動費補助事業 ・ 地域組織育成費補助事業		

■評価指標

中・長期成果に対する目標達成状況							
補助団体で活動する人数	事業実施年度	令和02年度	令和03年度	令和04年度	令和05年度	令和06年度	令和07年度
	目標値	175	178	180	185	185	185
	実績値	191	183				
単位	人						
	事業実施年度	令和02年度	令和03年度	令和04年度	令和05年度	令和06年度	令和07年度
	目標値	0	0	0	0	0	0
	実績値	0	0				
単位							

※のついた指標はまちづくり指標に同じ

■コスト

事業実施年度				決算額	決算額	予算額
				令和02年度	令和03年度	令和04年度
① 総事業費 (a+b)				6, 717千円	6, 583千円	
	a 事業費合計			6, 717千円	6, 583千円	6, 495千円
	人 件 費	正規職員	人数	0 人	0 人	
			b 金額	0千円	0千円	
		非常勤一 般職員等 (事業費に含む)	人数	0 人	0 人	
			金額	0千円	0千円	
			人件費合計		0千円	0千円
		② 補助金等 (収入)				0千円
③ コスト (①－②)				6, 717千円	6, 583千円	
市民一人あたりコスト (③／市の人口(評価対象年度末時点))				98 円	96 円	

■評価

評価項目	内容	評価結果		
(1) 有効性	成果指標は目標値を達成していますか	目標達成	○	A
	大施策に貢献していますか	貢献できた	○	
	重点をおく指標は妥当でしたか	妥当であった	○	
(2) 妥当性	中施策実現に向けて、事務事業はそれぞれの役割を果たしていますか (事業の役割が重複していませんか)	期待された役割を果たしている	○	A
	自治体が関与するのは妥当ですか	妥当であった	○	
(3) 効率性	評価指標達成に対する予算規模・単位コストは適正ですか	適正であった	△	B
(4) 進捗状況	中施策事業は計画通りに進んでいますか	計画より進んでいる、計画通り	○	A

■総合評価

上記までの評価指標、コスト、各項目評価の観点からの分析	総合評価 A 補助団体で活動する人数はほぼ横ばいで推移しており、成果指標としては目標値を達成している。地域で管理している児童遊園地やちびっ子広場の維持管理費への補助、遊具等の点検・修繕費等への補助、子ども会連絡協議会への事業費・運営費への補助、児童館等で活動する母親クラブへの補助など地域の活動への支援を通じて、地域が主体的に子育て支援事業を行う環境をつくることができた。
-----------------------------	--

■改善案の検討

現年度に実施可能な改善・調整事項	児童遊園地の遊具等の劣化が進行しており、遊具等の点検結果等をもとに、管理者と協議しながら、安全なあそび場を確保していく。その他、地域活動を支援することで、地域ぐるみでの子育て環境を確保していく。	
翌年度以降に実施可能な改善・調整事項	民生児童委員と適切に連携し、地域で子育てを支えるネットワークづくりへの支援を行う。	
今後、改善・拡大する事業	事業名	内容、理由、時期等
今後、実施すべき新規事業	事業名(仮称)	内容、理由、時期等
今後、休廃止する事業	事業名	内容、理由、時期等

中施策評価書

作成日 令和04年 5月 11日

中施策事業名	子育て支援センター事業	部課名	健康福祉部・子育て支援課
		作成者	松村 清子
①めざすまちの姿	28 子どもを産み育てやすいまちになっており、子どもの数が増えている		
②大施策	子どもを安心して産み育てられるまちをつくる		
③中施策	家庭や地域が子どもを大切に思い、支え合うことができるまちを醸成する		
④中施策事業の対象	児童のいる家族、関係者等		
⑤中施策事業の意図 (対象をどのようにしたいですか)	子育て支援センターを拠点とした子育て支援事業や相談事業により、子どもとその家族が安心して楽しく子育てができています		
⑥中施策事業を構成する 事務事業(手段)	・ 子育て支援センター事業		

■評価指標

中・長期成果に対する目標達成状況							
年間利用人数	事業実施年度	令和02年度	令和03年度	令和04年度	令和05年度	令和06年度	令和07年度
	目標値	12,500	12,500	17,000	17,000	20,000	20,000
	実績値	8,829	9,870				
単位	人						
	事業実施年度	令和02年度	令和03年度	令和04年度	令和05年度	令和06年度	令和07年度
	目標値	0	0	0	0	0	0
	実績値	0	0				
単位							

※のついた指標はまちづくり指標に同じ

■コスト

事業実施年度				決算額	決算額	予算額
				令和02年度	令和03年度	令和04年度
① 総事業費 (a+b)				10,731千円	9,721千円	
	a 事業費合計			10,731千円	9,721千円	13,447千円
	人件費	正規職員	人数	0 人	0 人	
			b 金額	0千円	0千円	
		非常勤一般職員等 (事業費に含む)	人数	0 人	0 人	
			金額	0千円	0千円	
			人件費合計		0千円	0千円
		② 補助金等 (収入)			0千円	0千円
③ コスト (①－②)			10,731千円	9,721千円		
市民一人あたりコスト (③／市の人口(評価対象年度末時点))				156 円	141 円	

■評価

評価項目	内容	評価結果		
(1) 有効性	成果指標は目標値を達成していますか	ほぼ達成	△	B
	大施策に貢献していますか	貢献できた	○	
	重点をおく指標は妥当でしたか	妥当であった	○	
(2) 妥当性	中施策実現に向けて、事務事業はそれぞれの役割を果たしていますか (事業の役割が重複していませんか)	期待された役割を果たしている	○	A
	自治体が関与するのは妥当ですか	妥当であった	○	
(3) 効率性	評価指標達成に対する予算規模・単位コストは適正ですか	適正であった	△	B
(4) 進捗状況	中施策事業は計画通りに進んでいますか	おおむね計画通り	△	B

■総合評価

上記までの評価指標、コスト、各項目評価の観点からの分析	総合評価B 新型コロナウイルス感染症対策のため、閉所期間や利用時間の制限を設けていたこともあり、利用人数は減少している。コロナ禍のため、人とのつながりを求め来所を希望される方も多く、地域の子育て中の家庭同士が交流を図り、地域の育児をとともに支えあう力を引き出せるような事業展開も検討していく。
-----------------------------	--

■改善案の検討

現年度に実施可能な改善・調整事項	共生交流プラザ内における地域子育て支援拠点において、母子保健事業と連携を図りながら地域づくりを担い、地域のニーズに合わせた事業展開や、子育て中の家庭のみでなく多世代の交流が生まれるような仕掛け作りが必要。	
翌年度以降に実施可能な改善・調整事項	子育て世帯に対して交流、参加、学びの機会を提供し、共生交流プラザ内における地域子育て支援拠点において、様々な相談を受け止め、複雑化・複合化した問題については多機関の連携により対応し、必要な支援につないでいく。さらに、支援が届いていない人に支援を届けるため、訪問等を通じて継続的につながり続ける支援を行う。	
今後、改善・拡大する事業	事業名	内容、理由、時期等
今後、実施すべき新規事業	事業名(仮称)	内容、理由、時期等
今後、休廃止する事業	事業名	内容、理由、時期等

中施策評価書

作成日 令和04年 7月 22日

中施策事業名	妊娠出産子育てワンストップ事業	部課名	健康福祉部・子育て支援課
		作成者	松村 清子
①めざすまちの姿	28 子どもを産み育てやすいまちになっており、子どもの数が増えている		
②大施策	子どもを安心して産み育てられるまちをつくる		
③中施策	家庭や地域が子どもを大切に思い、支え合うことができるまちを醸成する		
④中施策事業の対象	妊娠期から就学前までの子どもとその親 乳幼児～小学生のいる家庭		
⑤中施策事業の意図 (対象をどのようにしたいですか)	妊娠期より心配なことがあれば相談することができ、安心して子育てでき、子どものいる親が安心して働くことができています		
⑥中施策事業を構成する 事務事業(手段)	ネウボラ推進（情報発信、支援プラン、ファミサポ、産後ケア事業・養育支援訪問、関係機関との協議会）、家庭訪問		

■評価指標

中・長期成果に対する目標達成状況							
支援プラン作成件数	事業実施年度	令和02年度	令和03年度	令和04年度	令和05年度	令和06年度	令和07年度
	目標値	50	50	50	50	50	50
	実績値	48	58				
単位	延件数						
ふあみさぼ利用件数	事業実施年度	令和02年度	令和03年度	令和04年度	令和05年度	令和06年度	令和07年度
	目標値	3,000	3,000	3,000	3,000	3,000	3,000
	実績値	1,812	2,558				
単位	延件数						

※のついた指標はまちづくり指標に同じ

■コスト

事業実施年度				決算額	決算額	予算額
				令和02年度	令和03年度	令和04年度
① 総事業費 (a+b)				126,915千円	117,800千円	
	a 事業費合計			126,915千円	117,800千円	121,658千円
	人件費	正規職員	人数	0 人	0 人	
			b 金額	0千円	0千円	
		非常勤一般職員等 (事業費に含む)	人数	0 人	0 人	
			金額	0千円	0千円	
			人件費合計			0千円
② 補助金等 (収入)				0千円	0千円	22,237千円
③ コスト (①－②)				126,915千円	117,800千円	
市民一人あたりコスト (③／市の人口(評価対象年度末時点))				1,844 円	1,712 円	

■評価

評価項目	内容	評価結果		
(1) 有効性	成果指標は目標値を達成していますか	ほぼ達成	△	B
	大施策に貢献していますか	貢献できた	○	
	重点をおく指標は妥当でしたか	妥当であった	○	
(2) 妥当性	中施策実現に向けて、事務事業はそれぞれの役割を果たしていますか (事業の役割が重複していませんか)	期待された役割を果たしている	○	A
	自治体が関与するのは妥当ですか	妥当であった	○	
(3) 効率性	評価指標達成に対する予算規模・単位コストは適正ですか	適正であった	△	B
(4) 進捗状況	中施策事業は計画通りに進んでいますか	おおむね計画通り	△	B

■総合評価

上記までの評価指標、コスト、各項目評価の観点からの分析	総合評価 A 妊娠期から切れ目ない支援を実施するため、母子手帳交付時にすべての妊婦に保健師が面接し必要な支援につなぐことができた。また、必要に応じて医療機関や助産所とケースカンファレンス等連携を図った。また、産後ケアや養育支援訪問の利用期間延長や宿泊型産後ケア施設に大学病院を加えることにより、更なる支援の充実と連携調整を図り適切な支援介入の体制を整えた。産後ケアの利用は2人、デイケアについては1人。養育支援訪問は5人。多胎児世帯支援においては妊婦健診受診票の上乗せ交付を実施し、屈折度検査においては要受診対象者への受診状況確認を行い実績把握に努めた。
-----------------------------	---

■改善案の検討

現年度に実施可能な改善・調整事項	経済的、精神的な不安を抱える家族が増え、課題が複雑化している現状を鑑み、妊娠期からの支援方針を決定するにあたっては、心理専門職による専門的知見を得て判断することとし、関係機関との連携も更に強化する。特に、機能移転した地域子育て支援拠点（子育て支援センター）との妊娠期からの連携強化等、切れ目のない支援をつないでいくことを検討していく必要がある。また、これらの情報発信ツールとして、子育てアプリを活用して、子育て情報を子育て世帯に確実に届けていく。	
翌年度以降に実施可能な改善・調整事項	支援プラン作成時等の日常的な情報共有を密に行い、複雑なケースにも組織的な対応をぶれなく展開できるよう、関係機関との連携を強化する。	
今後、改善・拡大する事業	事業名	内容、理由、時期等
今後、実施すべき新規事業	事業名(仮称)	内容、理由、時期等
今後、休廃止する事業	事業名	内容、理由、時期等

中施策評価書

作成日 令和04年 5月 11日

中施策事業名	児童手当給付事業	部課名	健康福祉部・子育て支援課
		作成者	松村 清子
①めざすまちの姿	28 子どもを産み育てやすいまちになっており、子どもの数が増えている		
②大施策	子どもを安心して産み育てられるまちをつくる		
③中施策	ゆとりを持って男女共に子育てを楽しむことができるよう応援する		
④中施策事業の対象	児童及びその家族等		
⑤中施策事業の意図 (対象をどのようにしたいですか)	支援をもれなく受けることにより、経済的負担が軽減し、ゆとりある生活が送れるようになっている		
⑥中施策事業を構成する 事務事業(手段)	・ 児童手当給付事業 ・ 特別児童扶養手当給付事業 ・ その他臨時特別給付事業		

■評価指標

中・長期成果に対する目標達成状況							
現況届回収率	事業実施年度	令和02年度	令和03年度	令和04年度	令和05年度	令和06年度	令和07年度
	目標値	100	100	100	100	100	100
	実績値	99.5	99.3				
単位	%						
	事業実施年度	令和02年度	令和03年度	令和04年度	令和05年度	令和06年度	令和07年度
	目標値	0	0	0	0	0	0
	実績値	0	0				
単位							

※のついた指標はまちづくり指標に同じ

■コスト

事業実施年度				決算額	決算額	予算額
				令和02年度	令和03年度	令和04年度
① 総事業費 (a+b)				1, 329, 369千円	2, 270, 641千円	
	a 事業費合計			1, 329, 369千円	2, 270, 641千円	1, 074, 016千円
	人 件 費	正規職員	人数	0 人	0 人	
			b 金額	0千円	0千円	
		非常勤一 般職員等 (事業費に含む)	人数	0 人	0 人	
			金額	0千円	0千円	
		人件費合計			0千円	0千円
② 補助金等 (収入)				1, 079, 952千円	2, 006, 270千円	906, 531千円
③ コスト (①－②)				249, 417千円	264, 371千円	
市民一人あたりコスト (③／市の人口(評価対象年度末時点))				3, 624 円	3, 842 円	

■評価

評価項目	内容	評価結果		
(1) 有効性	成果指標は目標値を達成していますか	ほぼ達成	△	B
	大施策に貢献していますか	貢献できた	○	
	重点をおく指標は妥当でしたか	妥当であった	○	
(2) 妥当性	中施策実現に向けて、事務事業はそれぞれの役割を果たしていますか (事業の役割が重複していませんか)	期待された役割を果たしている	○	A
	自治体が関与するのは妥当ですか	妥当であった	○	
(3) 効率性	評価指標達成に対する予算規模・単位コストは適正ですか	適正であった	△	B
(4) 進捗状況	中施策事業は計画通りに進んでいますか	計画より進んでいる、計画通り	○	A

■総合評価

上記までの評価指標、コスト、各項目評価の観点からの分析	総合評価 A 現況届の回収率は昨年度から若干減少したが、成果指標としては目標値をほぼ達成している状況である。児童手当の現況届は例年6月の1か月間で、新型コロナウイルス感染症対策として令和2年度から郵送での手続きを推奨したこともあり、若干回収率が減少している。現況届の提出がない場合、6月以降の児童手当が支給できなくなってしまうため、対象家庭に手当をもらえなく支給できるよう、引き続き対象家庭に案内等を行う。また、市民課とも連携を図り、出生・転入出等の状況変化のタイミングを的確にとらえ、適宜必要な案内を行う。
-----------------------------	--

■改善案の検討

現年度に実施可能な改善・調整事項	児童手当法の改正に伴い、令和4年6月から現況届の提出が原則不要となるため、提出が必要な世帯も含め全対象世帯に案内を送付する。また、令和4年10月支給分から特例給付に所得上限が設けられるため、支給対象外となる世帯には案内を送付するなど、もれなく周知する。臨時的な給付金についても、もれなく支給できるよう、対象世帯に案内等を行う。	
翌年度以降に実施可能な改善・調整事項	臨時的な給付金なども含め、国等の動向を把握し、制度等の情報を分かりやすく確実に周知することで、子育て世帯の支援をもらえなく行う。	
今後、改善・拡大する事業	事業名	内容、理由、時期等
今後、実施すべき新規事業	事業名(仮称)	内容、理由、時期等
今後、休廃止する事業	事業名	内容、理由、時期等

中施策評価書

作成日 令和04年 5月 11日

中施策事業名	子ども子育て計画事業	部課名	健康福祉部・子育て支援課
		作成者	松村 清子
①めざすまちの姿	28 子どもを産み育てやすいまちになっており、子どもの数が増えている		
②大施策	子どもを安心して産み育てられるまちをつくる		
③中施策	ゆとりを持って男女共に子育てを楽しむことができるよう応援する		
④中施策事業の対象	子ども、子育てに携わる人		
⑤中施策事業の意図 (対象をどのようにしたいですか)	次世代を担う子どもたちが安心して生き生きと健やかに成長し、子どもを安心して生み育てられ、子育てするなら豊明市と思われるまちになっている		
⑥中施策事業を構成する 事務事業(手段)	・子ども子育て支援事業計画策定・進行管理 ・子ども・子育て会議		

■評価指標

中・長期成果に対する目標達成状況							
計画中に対象となる子どもの受入体制が維持できていない事業数（全13事業中）	事業実施年度	令和02年度	令和03年度	令和04年度	令和05年度	令和06年度	令和07年度
	目標値	0	0	0	0	0	0
	実績値	0	0				
	単位 事業						
	事業実施年度	令和02年度	令和03年度	令和04年度	令和05年度	令和06年度	令和07年度
	目標値	0	0	0	0	0	0
	実績値	0	0				
	単位						

※のついた指標はまちづくり指標に同じ

■コスト

事業実施年度				決算額	決算額	予算額
				令和02年度	令和03年度	令和04年度
① 総事業費 (a+b)				80千円	93千円	
	a 事業費合計			80千円	93千円	130千円
	人件費	正規職員	人数	0 人	0 人	
			b 金額	0千円	0千円	
		非常勤一般職員等 (事業費に含む)	人数	0 人	0 人	
			金額	0千円	0千円	
		人件費合計			0千円	0千円
	② 補助金等 (収入)				0千円	0千円
③ コスト (①－②)				80千円	93千円	
市民一人あたりコスト (③／市の人口(評価対象年度末時点))				1 円	1 円	

■評価

評価項目	内容	評価結果		
(1) 有効性	成果指標は目標値を達成していますか	目標達成	○	A
	大施策に貢献していますか	貢献できた	○	
	重点をおく指標は妥当でしたか	妥当であった	○	
(2) 妥当性	中施策実現に向けて、事務事業はそれぞれの役割を果たしていますか (事業の役割が重複していませんか)	期待された役割を果たしている	○	A
	自治体が関与するのは妥当ですか	妥当であった	○	
(3) 効率性	評価指標達成に対する予算規模・単位コストは適正ですか	適正であった	△	B
(4) 進捗状況	中施策事業は計画通りに進んでいますか	計画より進んでいる、計画通り	○	A

■総合評価

上記までの評価指標、コスト、各項目評価の観点からの分析	総合評価 A 令和3年度は教育・保育施設の民営化等の動きが多く、子ども・子育て会議を2回開催し、適切な時期に協議し、適切な情報共有・提供を行った。具体的には、南部地区の保育施設整備の方針について、サウンディング型市場調査の結果等を踏まえて協議したり、共生交流プラザ内に整備する児童発達支援センターと子育て支援センターについて、整備内容の情報共有を行ったほか、子ども・子育て会議の会長が共生交流プラザの担い手を決定するプロポーザル審査会に参加するなど、子育て支援施策の意思決定に関与した。
-----------------------------	--

■改善案の検討

現年度に実施可能な改善・調整事項	第2期子ども・子育て支援事業計画の中間見直しの年であり、実績値の把握、実績値と量の見込みとの比較、要因分析等を実施し、中間見直し案を取りまとめた上で、子ども・子育て会議で協議する。	
翌年度以降に実施可能な改善・調整事項	第3期子ども・子育て支援事業計画策定に向けて、令和5年度中に子育て世帯等を対象にアンケート調査を実施するなどニーズ調査を行い、子どもの健やかな育ちと子育てを社会全体で支援する環境を整備するための計画を令和6年度中に策定する。	
今後、改善・拡大する事業	事業名	内容、理由、時期等
今後、実施すべき新規事業	事業名(仮称)	内容、理由、時期等
今後、休廃止する事業	事業名	内容、理由、時期等

中施策評価書

作成日 令和04年 6月 30日

中施策事業名	放課後児童健全育成事業	部課名	健康福祉部・子育て支援課
		作成者	
①めざすまちの姿	28 子どもを産み育てやすいまちになっており、子どもの数が増えている		
②大施策	子どもを安心して産み育てられるまちをつくる		
③中施策	仕事と子育ての両立ができる環境をつくる		
④中施策事業の対象			
⑤中施策事業の意図 (対象をどのようにしたいですか)			
⑥中施策事業を構成する 事務事業(手段)			

■評価指標

中・長期成果に対する目標達成状況							
児童クラブ待機人数	事業実施年度	令和02年度	令和03年度	令和04年度	令和05年度	令和06年度	令和07年度
	目標値	5	5	5	5	5	5
	実績値	0	0				
単位	人						
	事業実施年度	令和02年度	令和03年度	令和04年度	令和05年度	令和06年度	令和07年度
	目標値	0	0	0	0	0	0
	実績値	0	0				
単位							

※のついた指標はまちづくり指標に同じ

■コスト

事業実施年度				決算額	決算額	予算額
				令和02年度	令和03年度	令和04年度
① 総事業費 (a+b)				0千円	0千円	
	a 事業費合計			0千円	0千円	0千円
	人件費	正規職員	人数	0 人	0 人	
			b 金額	0千円	0千円	
		非常勤一般職員等 (事業費に含む)	人数	0 人	0 人	
			金額	0千円	0千円	
		人件費合計			0千円	0千円
② 補助金等 (収入)				0千円	0千円	0千円
③ コスト (①－②)				0千円	0千円	
市民一人あたりコスト (③／市の人口(評価対象年度末時点))				0 円	0 円	

■評価

評価項目	内容	評価結果		
(1) 有効性	成果指標は目標値を達成していますか	目標達成	○	A
	大施策に貢献していますか	貢献できた	○	
	重点をおく指標は妥当でしたか	妥当であった	○	
(2) 妥当性	中施策実現に向けて、事務事業はそれぞれの役割を果たしていますか (事業の役割が重複していませんか)	期待された役割を果たしている	○	A
	自治体が関与するのは妥当ですか	妥当であった	○	
(3) 効率性	評価指標達成に対する予算規模・単位コストは適正ですか	コストを縮減して目標が達成できた	○	A
(4) 進捗状況	中施策事業は計画通りに進んでいますか	計画より進んでいる、計画通り	○	A

■総合評価

上記までの評価 指標、コスト、各 項目評価の観点 からの分析	
---	--

■改善案の検討

現年度に実施可 能な改善・調整事 項		
翌年度以降に実 施可能な改善・調 整事項		
今後、改善・拡大 する事業	事業名	内容、理由、時期等
今後、実施すべき 新規事業	事業名(仮称)	内容、理由、時期等
今後、休廃止する 事業	事業名	内容、理由、時期等

中施策評価書

作成日 令和04年 6月 10日

中施策事業名	心身障がい児通園施設管理運営事業	部課名	健康福祉部・子育て支援課
		作成者	松村 清子
①めざすまちの姿	30 子どもの個性や感性を尊重し、伸ばしている		
②大施策	子どもの個性や感性を尊重し、伸ばす環境をつくる		
③中施策	好きなことができるように周りの大人の理解を深め、支援できるようにする		
④中施策事業の対象	障がい児及びその家族、関係者等 (障がい児疑い含む)		
⑤中施策事業の意図 (対象をどのようにしたいですか)	障がいに応じた療育支援や相談を受けることにより、不安が解消され、将来への見通しが持てるようになる		
⑥中施策事業を構成する 事務事業(手段)	・心身障がい児通園施設事業 ・どんぐり学園入園・園医依頼・報酬支払		

■評価指標

中・長期成果に対する目標達成状況							
どんぐり学園年間登録人数	事業実施年度	令和02年度	令和03年度	令和04年度	令和05年度	令和06年度	令和07年度
	目標値	50	50	50	50	0	0
	実績値	25	25				
単位	人						
	事業実施年度	令和02年度	令和03年度	令和04年度	令和05年度	令和06年度	令和07年度
	目標値	0	0	0	0	0	0
	実績値	0	0				
単位							

※のついた指標はまちづくり指標に同じ

■コスト

事業実施年度				決算額	決算額	予算額
				令和02年度	令和03年度	令和04年度
① 総事業費 (a+b)				9,809千円	16,489千円	
	a 事業費合計			9,809千円	16,489千円	0千円
	人件費	正規職員	人数	0 人	0 人	
			b 金額	0千円	0千円	
		非常勤一般職員等 (事業費に含む)	人数	0 人	0 人	
			金額	0千円	0千円	
		人件費合計			0千円	0千円
	② 補助金等 (収入)				0千円	0千円
③ コスト (①－②)				9,809千円	16,489千円	
市民一人あたりコスト (③／市の人口(評価対象年度末時点))				143 円	240 円	

■評価

評価項目	内容	評価結果		
(1) 有効性	成果指標は目標値を達成していますか	ほぼ達成	△	B
	大施策に貢献していますか	貢献できた	○	
	重点をおく指標は妥当でしたか	妥当であった	○	
(2) 妥当性	中施策実現に向けて、事務事業はそれぞれの役割を果たしていますか (事業の役割が重複していませんか)	期待された役割を果たしている	○	A
	自治体が関与するのは妥当ですか	妥当であった	○	
(3) 効率性	評価指標達成に対する予算規模・単位コストは適正ですか	適正であった	△	B
(4) 進捗状況	中施策事業は計画通りに進んでいますか	計画より進んでいる、計画通り	○	A

■総合評価

上記までの評価指標、コスト、各項目評価の観点からの分析	総合評価 A 年間登録人数はほぼ横ばいで推移しており、成果指標としては目標値を達成していない状況ではあるが、どんぐり学園において、就学前の発達に支援が必要な子の通園施設として、社会性を身に付ける活動やレクリエーションなどを通じて、小集団の中での生活動作やコミュニケーション力を育ててきた。利用者からの評価も高く、閉園する令和3年度末まで障がい児の通園施設として役割を果たし、安定的に貢献してきたと考える。令和4年度以降は、共生交流プラザ内に児童発達支援センターとして発展的に移転する。
-----------------------------	--

■改善案の検討

現年度に実施可能な改善・調整事項	令和4年4月に開所した児童発達支援センターにおいて、どんぐり学園で長年培ってきた親子通所事業を継続しつつ、県の指定事業として児童発達支援事業・保育所等訪問支援事業・相談支援事業など療育サービスを展開し、地域全体の障がい児支援環境の向上を図る。	
翌年度以降に実施可能な改善・調整事項	直営から民間事業者への委託に切り替えたことによるサービスの低下が生じないように、利用者の声を聞きながら、療育サービスの質の向上を図るとともに、委託事業者の育成を図る。	
今後、改善・拡大する事業	事業名	内容、理由、時期等
今後、実施すべき新規事業	事業名(仮称)	内容、理由、時期等
今後、休廃止する事業	事業名	内容、理由、時期等

中施策評価書

作成日 令和04年 6月 30日

中施策事業名	児童発達支援センター事業	部課名	健康福祉部・子育て支援課
		作成者	
①めざすまちの姿	30 子どもの個性や感性を尊重し、伸ばしている		
②大施策	子どもの個性や感性を尊重し、伸ばす環境をつくる		
③中施策	好きなことができるように周りの大人の理解を深め、支援できるようにする		
④中施策事業の対象			
⑤中施策事業の意図 (対象をどのようにしたいですか)			
⑥中施策事業を構成する 事務事業(手段)			

■評価指標

中・長期成果に対する目標達成状況							
	事業実施年度	令和02年度	令和03年度	令和04年度	令和05年度	令和06年度	令和07年度
	目標値	0	0	0	0	0	0
	実績値	0	0				
単位							
	事業実施年度	令和02年度	令和03年度	令和04年度	令和05年度	令和06年度	令和07年度
	目標値	0	0	0	0	0	0
	実績値	0	0				
単位							

※のついた指標はまちづくり指標に同じ

■コスト

事業実施年度				決算額	決算額	予算額
				令和02年度	令和03年度	令和04年度
① 総事業費 (a+b)				0千円	0千円	
	a 事業費合計			0千円	0千円	0千円
	人 件 費	正規職員	人数	0 人	0 人	
			b 金額	0千円	0千円	
		非常勤一 般職員等 (事業費に含む)	人数	0 人	0 人	
			金額	0千円	0千円	
		人件費合計			0千円	0千円
	② 補助金等 (収入)				0千円	0千円
③ コスト (①－②)				0千円	0千円	
市民一人あたりコスト (③／市の人口(評価対象年度末時点))				0 円	0 円	

■評価

評価項目	内容	評価結果		
(1) 有効性	成果指標は目標値を達成していますか	目標達成	○	A
	大施策に貢献していますか	貢献できた	○	
	重点をおく指標は妥当でしたか	妥当であった	○	
(2) 妥当性	中施策実現に向けて、事務事業はそれぞれの役割を果たしていますか (事業の役割が重複していませんか)	期待された役割を果たしている	○	A
	自治体が関与するのは妥当ですか	妥当であった	○	
(3) 効率性	評価指標達成に対する予算規模・単位コストは適正ですか	コストを縮減して目標が達成できた	○	A
(4) 進捗状況	中施策事業は計画通りに進んでいますか	計画より進んでいる、計画通り	○	A

■総合評価

上記までの評価 指標、コスト、各 項目評価の観点 からの分析	
---	--

■改善案の検討

現年度に実施可 能な改善・調整事 項		
翌年度以降に実 施可能な改善・調 整事項		
今後、改善・拡大 する事業	事業名	内容、理由、時期等
今後、実施すべき 新規事業	事業名(仮称)	内容、理由、時期等
今後、休廃止する 事業	事業名	内容、理由、時期等